


地域の中で輝く子ども

千葉武夫

View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

brought to you by  CORE

provided by Kwansei Gakuin University

は、約119万人の出生数でしたが、昨年の2014年には約100万人でした。約19万人の差があり激減していることがわかります。また、公園などで子どもが自由に遊んでいる姿もあまり見られなくなりました。小学生は登校する際に集団登校であり、その様子を近所の大人が見守っています。これは、通学路の安全を確保し、不審者から守ることが目的です。子どもを地域で守ることは、とても貴重な営みです。しかし、それがゆえに子どもが通学路で寄り道やみちくさをする機会もなくなっているのも事実です。子どもは、まっすぐに学校に行き、まっすぐに家に帰る。そして、塾へ行ったり、家庭内で遊んだりする。同居する家族の人数も減り、世代間の交流もあまりない中で生活を送っているのです。昔は、地域の人は子どものありのままの姿をじかに感じ、子どもは様々な経験や価値観を持つ地域の人々の中で育っていました。

このような経験を補うために小学校・幼稚園・保育園等では、地域の人や異年齢の子どもと触れあう行事等の機会を設けています。しかし、これが形だけの関係では、教育的な価値もありません。学校や保育園等が地域やそこに住むお年寄り等お互いの生活に溶け込んでいることが求められるのです。これには、教師や保育士が、普段から地域との連携の意味を理解し、日常的な積み重ねが必要となります。

私たちは子どもに、社会で生きていくために「他人に迷惑をかけない」ようにすることを教えてきました。しかし、本当は「他人に迷惑をかけない」ことが人とのよい関係をつくるのではなくて、「他人に上手に迷惑をかける」ことを、子どもに伝えておくべきことではないでしょうか。

子どもは学校を卒園した後も、その地域で生きていきます。子どもがその地域を作り出す存在となるのです。地域の中で、子どものことを多くの方に理解してもらい、期待され育った子どもは、きっと星のように光り輝くことでしょう。子どもが子どもらしく、それぞれの光を自分らしく輝くことができる地域にしていかなければなりません。多くの子どもの星が地域の中で、一つ一つ輝き、大切にされ、調和し、人の心へ届く輝きができることを願っています。

(聖和短期大学学長)